

マイブウ・メーノス (まあーまあー)の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津 久 記

第 16話ーブラジルの言葉

「Naõ (ノン)」、「Sim (シン)」の使い方

ケーキを進められた時、「Voce quer um pedacinho de bolo?」(ケーキ 一切れどうですか? 「Obrigado」(ありがとう)と答えると、相手は 欲しいのか、ほしくないのかわからず戸惑ってしまう。「Quero, **sim obrigado**」(はい、いります、ありがとう)、「**nãõ obrigado**」(いいえ、結構です)と、受け入れる時は「**Sim**」、または拒絶するときは「**nãõ**」を付けてはっきり言うこと。日本語での、「はい」、「いいえ」の使い方を忘れて、Sim、Nãõ で応えられるようにしてください。

「nãõ quer?」(いらない?)、「はい、いりません」(Sim, nãõ quer)の答えはない、いるなら「Quero, **sim obrigado** (ケーロ、シン オブリガード)」、いらないなら「**nãõ obrigado** (ノン オブリガード)」と、シンまたは、ノンを付けてはっきりと云うことです。

今回はポ語の勉強ではないので、使ってはいけない言葉、下品な言葉を拾ってみました、むしろ皆さんのほうが沢山知っているかもしれません。

会社で良く耳にする言葉で「**飯食う。メシクー**」“Mexe cu(メーシ・クーで一尻の穴をいじる)”となる。「**魚食う。サカナ クウ**” “Sacana(gem) cu(サカーナ・クーで尻の穴でSexする)”となる。サカナージンのオリジナルは男と女がSEXすることであるが、ダマスとかハメチャウという意味で、単にダマスよりもっと下品で汚い意味になる。

怒っている時に良く聞くが、相手を罵倒する言葉に「**フィリャ・ダ・マエン**” “Filha da mãe (フィーリャ・ダ・マーエンで一ダメな女の子)”がある。これは普通よく使われる、もっと下品な次の言葉を言いたいが云えない場合に使う、また使ってもそんなに相手をバカにしないが、「**フィリャ・ダ・プッタ**” “Filha da puta(フィーリャ・ダ・プータで一女郎の子供)”となると、下品で相手を非常に冒瀆することになり、この言葉で喧嘩になり、相手を殺すという騒ぎに発展することもある。約してFDPと言うことがある。

また、仕事でよく「**筆、筆持ってこい**」の「筆」は、聞く人にとって “Foder(フォデーラで一ファックする、Sexする)” と聞こえるので要注意。

「**鏡、カガミ**」も汚い言葉で “Cagar me(カガール・メで一俺に糞しろ)” となって

します。香川県 “Cagar a quem (カガール・ア・ケーンで—誰に 糞する)” となる、これもまた大変です。

レストランなどに行くと、ウェーターが料理を運んできました、日本から来たばかりと思われる人達が、「おい、ここに置け」とウェーターに云っています。これで廻りの人達の食事は台無し。“Oi cocô o que (オーイ・ココー・オー・ケーで—おい、何のウンコ(糞)だ” と聞こえ、折角の美味しい料理がウンコになってしまっている。空き席に人を呼ぶ時、「此処—ここ」は ”ココーで—ウンコ(糞)” にならないよう、まして指を差して「ここ、ここ、。。。」(説明しなくてもわかりますね)。“aqui アキー”と云って下さい。仕事の場合でも同じです。また「これ食べますか？」と勧められて、「おー、食う、食う」なに？ “Cu Cu (お尻の穴、穴)” と云っていることになる。とにかく「こ。。」、「く。。」の付く言葉には要注意。

「お尻」とは日本語ではいやらしい言葉にはならないが、ブラジルでは “O xiri (オ シーリで—穴)” となり、どっちの穴だ、“O xiri mijão(オ・シーシ・ムジャーンで前の穴)” か、“O xiri cagão(オ・シーシ・カガーウンで—後ろの穴” かと云うふうになります。南米の「チリはすごい」はブラジル語の発音では「シーリで—尻」え！！すごいとなってしまふ。

その他よく耳にする下品な言葉を列記しますので、似たような日本語の発音には注意してください。

「カルネ・ミジョン」は、女の性器のひだを意味する。ようするに小便に漬かった肉という意味。「ブセッタ」オマンコ。「Porra ポーハ」男性の精液の意味で、日本語で「クソー」という時に使う。「Caralha カラーリョ」男性の性器のことだが、ムカついている時に使う。「canalha カナーリャ」ろくでなし。ホハーダ「殺せ」。日本人の方は平気で「バカ」「おまえバカ」「バカ何やってるんだ」と頻繁に使うが、「バカ」はポ語では“Burro (ロバ)”になるが、普段の時に使ったら人権侵害で訴えられること間違いなし。

“Puxa-saco (男性の袋—金玉—を引っ張る)”、ようは「ごきげん取り」、「Saco cheio (袋—金玉—が一杯)”うんざりしていてもまんできない。表現が良く出来てますよね。

さらに、最後に注意しなければならない言葉、食事をして美味しかったときは “Nossa que foi gostoso”と「ゴストーゾ」と言うが、“Nossa que gostosa!!(ゴストーザ)”は全然意味が違って、「なんていい女か！！」、直訳「なんで美味そうなやつなんだ」となり、間違っても女性を見て「gostosa」と言わない事、すぐに何か飛んできて歯の 2-3

本が折れてしまうかも。

最後に、ピクニックやフェスタに行って座る時に、「ござ、ゴザがほしい。」という、ポルトガル語と日本が混じって”Quero gozar!!(ケーロ・ゴザール)”で非常に怪しい言葉になってしまいます。南米の「チリ」はすごいが、ポ語での発音が混じって「南米の chile シーリはすごい(南米人の尻はすごい)」にもなってしまふ。

“Puta que pariu! Mas que e bunda gostosa hein...”、「畜生、なんていいけつしてやがんだだ!。。。」

これ以上、続けると配信禁止になりそうなので、これで締めます。

—次回 第 17 話へ続く—